



時幼報

題字／栃木県知事 福田富一氏

第150号

令和4年12月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁金西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／齋藤 君世 ●発行人／船田 弘和

■栃幼連ホームページ <https://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

地区会長挨拶

宇都宮地区会長



山崎 英明
今年度より宇都宮地区会長を務めさせていただきますことになりました。

宇都宮地区は宇都宮市と上三川町の園が加盟しており、私学助成の幼稚園十六園、国立一園、施設型給付の幼稚園一園、幼保連携型認定こども園一園、幼稚園型認定こども園六園、保育所型認定こども園一園、保育所一園、小規模保育園四園、合計五十三園となっております。少子化そして社会情勢の予測困難な変化が進む中、園と子どもたちを取り巻く状況も厳しさを増しています。しかし、そのような状況であっても、子どもたち・保護者・地域の子育て家庭、そして加盟園とその職員の幸せのために、与えられた職責を精一杯果たすべく努力をしてまいりたいと思います。皆様のお力添えを何卒お願い申し上げます。

私は、こんな人

私は常に斜めや引いた視点で物を見て考える少しひねくれた人です。そして思ったことを言わずにいろいろなタイプです。それが良い時もあれば悪い時もありますが、自分に正直でありたい、そして私の目が届く、声が聞こえる範囲の人たちがどうしたら幸せになれるか。そんなことを結構真面目に考える人です。



芳賀地区会長

宇南山 照元

今年度より地区会長を仰せつかり、設置者園長先生方の指導の下、引き締めて精進してまいりたいと思います。昨今のコロナ禍における新しい生活や急速な少子化への対策などめまぐるしいものがあります。幼児教育を担う者として、社会変動に冷静に耳を傾け、一歩一歩課題に取り組んで参りたいと思います。

さて、芳賀地区は県東に位置し、真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町で構成されています。園長先生同士の仲が良く、研修会も国内どころか海外研修を行うなど（コロナ禍中止）、見聞を広げる事を理由に、親睦を深め、情報交換と

連携を密にしている地区と言えます。令和五年度の幼稚園教育振興の集いは当地区で実施いたしますので、皆さんのお越しをお待ちしております。

私は、こんな人

サッカー経験四十五年を過ぎW杯サッカーカタル大会の殆ど全試合を観ていて寝不足になる程のサッカー好きです。子供の頃からの夢のW杯出場！でなく観戦も独身の時に達成し、未だに夢を追っております。日本「ブラボー」!!



足利地区会長

岩崎 哲郎

日本最初の学問の府、足利学校として知られる当地は古くから教育・文化や産業の発揚に熱心な土地柄であります。その風土は幼児教育においても県内初の民間での幼稚園が開設されたり、町中への全国三番目という火災報知機の設置、さらには防火栓の設置等々、進取の気性に富んだ地域でも有ります。そうした風土のもと市内各園では保育活動が成されております。さらには、市幼稚園連合会主催での活動として地域の大型ショッピング施設でのアピタ幼稚園フェスタを開催して幼稚園での保育活動を実施紹介するなど地域の幼児教育・保育の発展に努めています。

そのような中で今年より地区会長をお受けすることとなりました。永年、高校教育に携わってはいましたが幼児教育の現場に接し教育の原点を見た思いのすることしほしです。

既に高齢となりかつ幼児教育や園経営に不案内な私ですが足利の伝統風土を大切に微力を尽くそうと思えます。

私は、こんな人



佐野地区会長

荒居 養雄

今年度より佐野市幼稚園連合会会長に就任しました。当連合会は六十九年前安佐幼稚園連合会として発足し、合併により名称を変更し、現在十三の園が加盟しています

当連合会の事業を紹介いたします。以前は各園で出資して全国でも珍しい共同の預かり保育センターを運営したり、毎年の設置者園長研修旅行では海外などにも出向きました。また公開保育は六十年以上前から毎年輪番制で実施しています。こども園化やコロナの影響により、従来の全教員参加が困難となり、今年はハイブリッド方式での公開保育に取り組みしました。今後は毎月の定例会やスラックなどのツールを活用し情報共有に努め幼児教育の振興に努めていきます。

住職・園長として寺と園の経営に携わり時間に追われる毎日です。自分自身働き方改革をして、若かりし頃JAZZを中心に収集したレコード（六百枚程あります）をゆつくりと聴ける生活を夢見ています。

私は、こんな人



栃木地区会長

堀 昌道

栃木地区は幼稚園連合会の理事長を三人も輩出しています。

す。石川常四郎理事長、栗原信明理事長、そして現船田弘和理事長です。それぞれの先生が振興活動の重要性をあるごとに訴えて来られました。色々事情はあるが、各園が一つになって要望するから応援する政党に話を聞いてもらえるかと教える受けました。また園長会は八月を除いて毎月行われてい



ます。コロナ前は必ず会議後会食をして閉めていました。会費を納めた五月、暑氣払いの七月、忘年会の十二月にはお酒も出て和やかな場になっていました。船泊理事長のお祝いを七月に予定していましたが、まだ出来ていないのが残念です。

歴代の地区会長さんは、当職ではあるけれども、やるからにはきちんと職務を全うしようと思かれています。で、五年目になりますが、任期中会長をつつがなく務め、次の人にバトンを渡せたらと考えています。



伊沢 信恭
のぶやす

小山地区会長

前期に引き続き、小山地区会長を拝命いたしました。微力ではございますが、小山地区の先生方のご理解とご協力をいただきながら、有意義な地区活動となるよう努めて参ります。ここ数年、コロナの影響により小山地区の活動も一部停滞したこともありましたが、しかし、例えば小さくとも火を消さない、また、どんなにゆっくりであったとしても足を止めずに小山地区は前進していきたいと念願しております。

問題は山積です。教職員の確保をはじめ、人材の育成、保育の質の確保、特別な支援を要する子どもたちへ対応、自家用車での送迎増加に伴う駐車場確保や地域への配慮と人件費の捻出、その他。その一つひとつが決して簡単に解決できるような問題ではありませんが、小山地区二十七園の熱く個性豊かな先生方と心を合わせ、取り組んで参ります。

那須・塩原・黒磯方面で、

私は、朝食と温泉を定期的に楽しんでおりますが、ポンコツ車のために、今までレッカー車に

お世話になったこと、計四回。また、自園を植物園のような環境にしたいという、ぼんやりとした「夢」を持っております。



栗原 森人
もりと

鹿沼地区会長

鹿沼地区では幼稚園連合会として八つの園が協力しています。三期目になりました。

現在、八園のうち五つの園が認定こども園、三つの幼稚園は施設型給付の幼稚園です。

市との繋がりも益々深くなっており、行政とも連携協力しながら保育の充実に努めています。

また、各園の保護者とも地区PTAで意見を交換し、協力しながら子どもたちの成長のために活動しています。

現在のコロナ禍の中、人と人との繋がりが深まりにくい世界になっていますが、様々な工夫しながら皆で連携できることを探し、地域の豊かな自然とおいしい野菜や果物にも触れあいつつ、元気で明るく前向きな子どもを育てていきたいと考えています。

「じいじ、こっち来て。」入園したばかりの満三歳児に呼ばれて、「はい！」って返事してしまいました。

自由時間の園庭には笑顔がいっぱい。いい子は子どもたちや先生たちの笑顔から元気をもらって頑張っています。

日光地区会長

桑門 秀光
しゅうこう



今年度より地区会長を仰せつかりました。日光市は面積が

大変広くて、人口密度は低く、人より猿や鹿の方が多いと揶揄されることもあります。自然が大変豊かで、歴史的な文化遺産や景勝地、温泉も多く、最近では環境の良さと暮らしやすさに惹かれて移住者も徐々に増えています。

日光市幼稚園連合会は、現在七園となっています。長い歴史がある園が多く、それぞれに伝統を大切にしながらも未来に生きる子どもたちのためにより良い教育を提供するため努力しています。

地区会長の役割は、園長会を通じて情報を共有し、各園の立場を大切にしながら融和と共栄を図り、教職員研修を通じて資質向上の機会を作ることが大切だと思っています。

物が捨てられない性質で、気が付いているつもりでも物が増えてしまつ。兼業のため、自由時間を確保することができないのが長年の悩み。コロナ禍を何とか過ごせているのは、現在四歳の孫の存在が大きいです。

塩谷地区は加盟園八園と決して多くはありませんが、その分団結力が強く、些細なことも相談し合える素晴らしいチームです。



塩谷地区会長
石嶋 純
じゅん

皆さん聡明な方々なので、私のような若輩者が務まるのか不安しかありませんでしたが、気が付けば四十を過ぎ、もう若手ではないことに若干の焦りを感じつつ、未熟な点が多々あるとは思いますが、皆様のお力添えをいただきながらお役に立てるよう、精一杯務めさせていただきます。

私は、体を動かすことが好きで、格闘技の試合に出たり、山登りをしてましたが、体重の増

加とともに機械に頼るようになりました(笑)。最近ではバイクでのツーリングが趣味です。バイクをお持ちの先生、是非一緒に走りましょう。



栗田 英子
ひでこ

那須地区会長

今年度、地区では初めての女性会長を拝命し重責を感じつつ、諸先輩方のご意見を賜りながら微力ではありますが精一杯務めさせていただきます。

那須地区は大田原市・那須塩原市・那須町の幼稚園が二園、幼稚園由来の認定こども園が十六園、保育園が二園の計二十園が加盟しています。自然豊かな地域ですが過疎化・少子化に悩まされています。情報化社会や保護者の価値観の多様化等々子どもを取り巻く環境も変わっています。園長会では、園や市町の実情を踏まえ、安定経営はもちろん大切ですが「幼児教育の原点」に立ち返りながら、情報交換をしています。また、保育の質の向上を目指し、研修会を充実させたり視察研修を実施しています。

ママさんバレーボール・インディアカと約三十年楽しみました。今はスポーツとは無縁の生活ですが、笑いながら汗を流した頃が懐かしと思います。体重の増加と体力・筋力の衰えを感じフィットネスクラブに通いましたが、時間を捻出できなかったため、再開継続を目標にしています。休日には、孫と遊んだり愛犬と散歩したり、旅行雑誌を見て私の未踏の地に想いを馳せながらまったりと過ごしています。ミュージカル鑑賞とブチ旅行が好きです。

私は、今年度、地区では初めての女性会長を拝命し重責を感じつつ、諸先輩方のご意見を賜りながら微力ではありますが精一杯務めさせていただきます。

私は、今年度、地区では初めての女性会長を拝命し重責を感じつつ、諸先輩方のご意見を賜りながら微力ではありますが精一杯務めさせていただきます。



寄贈品紹介

職育絵本の寄贈

十月三十一日(月)

栃木県中古車販売協会様より、協会設立五十周年を記念して、職育絵本「くるまゆーちゃん」とみつめてばそんたろう」が寄贈された。ものを大切にする思いが込められた絵本には、中古車販売の仕組みや意義が子どもたちにも分かりやすい物語として描かれており、栃園や認定こども園計百九十三園に五冊ずつ配布された。



栃木米の寄贈

十一月七日(月)

今年度も、全国農業協同組合連合会栃木県本部(JA全農とちぎ)様より、栃木県産の三銘柄(コシヒカリ・なすひかり・とちぎの星)が、栃幼連に加盟する園に五キログラムずつ贈呈された。

未来を担う子どもたちに、県が誇るブランド米を食べてもらうことで、食育の一環を担うという取り組みであった。園によっては給食時に提供されることもあり、栃木米を通じた食育活動が広がった。



研修会だより

第二回 設置者・園長経営研修会

令和四年九月八日(木)

会場 ホテルニューイタヤ(天平の間)

参加 九十二名

内容 (うちリモート参加 五十七名)

施設型給付費見直しセミナー

〜公定価格を呼ばれる施設型給

付費の基礎および発展解説〜

講師 公益財務スペシャリスト(二部)

飯見正太郎氏

業務改善コンサルタント(二部)

飯見正太郎氏

会野 利樹氏

収入構造(単価)

の見直し

得られるはずの

加算をもらい忘れ

ていたり、利用定

員の人数設定が不

利であったりする

園が多く見受けら

れる。今一度、試

算ソフトなどを使用するなどをして確

認すると良い。

(2)施設型給付費算定時の留意事項

①職員の充足が必要な加算について

は、基本単価分において充足すべき

年齢別配置基準職員数及び年齢別配

置基準職員を補完する職員数を満た

したうえで、それぞれの加算におい

て求める職員数を充足すること。



②各加算の適用に優先順位はなく、各園の実情に応じて加算を選択できること。

③常勤以外の職員を配置する場合については、常勤換算した数値により充足状況を確認すること、なお、学級担任は原則常勤専任であることに留意すること。

(3)職員充足が必要な主な加算

・三歳児配置改善加算

・満三歳児対応教諭配置加算

・講師配置加算

・チーム保育加算

・主幹教諭等専任加算

・事務職員配置加算

・非常勤充実加算加算

・事務負担対応加算加算

・療育支援加算

第三回 設置者・園長経営研修会

令和四年十一月十日(木)

会場 ホテルニューイタヤ(天平の間)

参加 八十八名

内容 (うちリモート参加 三十一名)

テーマ 加速する少子化と保育政策の行方

〜問われる保育の質と経営の質〜

講師 (株)保育システム研究所 代表取締役

吉田 正幸氏

初めに、これから少子化はどん

どん加速していく状況にある。こ

の中で子どもの健やかな育ちのために自

分たちには何ができ

るのかを改めて考え

ていくことが大切で

ある、とお話しいた

だいた。



これまで待機児童が多い時代は、入れただけで良しとする時代であったが、これからは我が子にどのような施設が望ましいか選択をする時代になり、魅力があり質の高い保育を提供している施設が選ばれる時代となっている。

その中で、質の高い保育を提供するには、十分な数の職員を確保し、職員の処遇を改善し、魅力的な職場環境を整え、研修を充実させていかなければならない。

また、市町村や県、国の施策の動向をしっかりと把握し、園がさらに良くなっていくための経営課題をどこまで把握できるかが重要となってくる。

そして、各園の保育の理念・目標にもとづいて、職員一丸となり保育の質の向上を目指していく必要がある。そのためにも自園の教職員へ保育の理念・目標を共有する時間を多く設け、理念・目標を基礎に日々の保育を実践していくための環境作りも大切になってくる。

子どもの健やかな育ちのために「地域の中で何に貢献できているのか」を考え、着実に実践していくことが重要である。魅力ある園作り、選びたくなる園作りを行い、この危機的状況を乗り切って欲しい、と最後に述べられた。

今後各園が進むべき方向性についてのヒントが大いにあった講演であった。少子化が更に進む世の中であるが、子どものことを第一に考え、各園が魅力的な園作りをすることが、これまで以上に重要



であると感じた。

令和四年度 資質向上研修③

期日 令和四年十月十八日(火)

会場 認定こども園釜井台幼稚園

参加 三十六名

内容 ECEQ公開保育研究会

今回の資質向上研修は、ECEQを用いた公開保育研究会であった。宇都宮市の認定こども園釜井台幼稚園が会場とされた。

平成三十一年に幼保連携型認定こども園に移行し、生後三ヶ月から就学前児の三百五十名を超える園児が在籍している。



公開保育研究会は、オリエンテーションから始まり、午前中に年少組から年長組の保育観察を実施して、昼食後は園内の自由見学ができた。午後はECEQコーディネーターが進行役を務める分科会が開催された。



分科会では、保育の振り返りや、保育観察時のポイントで

ある「問い」を基に、フリートーク形式で意見を出し合った。

ECEQを用いた今回の公開保育研究会は、保育環境の観点でも想定以上の収穫を得られた研修になったであろう。研修に参加された保育者のこれからの活躍を楽しみに思う。

資質向上研修②「視察研修」

期日 令和四年十一月二十九日(火)

視察先 認定向山こども園

参加 二十四名

視察先の認定向山こども園は、宮城県仙台市に位置し、住宅街でありながら自然豊かな場所にある。



昭和三十一年にキリスト教的人間観を土台に、自然と自由遊び、自由への教育を柱に保育を行っている。三歳未満児部門の「ばつぱんち」と三歳以上児部門の「ゆうぼうの丘」に分かれ、どちらも子どもたちが主体の生活ができるよう、専門的な勉強をした保育者が日々子どもたちと生活を共にしている。

視察の案内をしてくださった副園長の木村創氏によると、電通の過労死問題を機に働き方改革を進め、ブラックからホワイトへ、そして今はホワイトからカラフルへ組織を変革しているという。二交代制の導入、ICT化、「減らす」では



なく「廃止」など、独自の改革路線を打ち出している。改革のポイントは、仲間・空間・時間の三問だという。

今回の視察研修は、保育の質の向上に寄与するだけでなく、働き方改革に関しても新たな視点を得られるなど、とても学びのあるものになった。

第二回 保育テクニカル講座

期日 令和四年九月十五日(木)

会場 ホテルニューイタヤ(大平の間)

参加 八十三名

テーマ 楽しい「表現」(音楽)を再考しよう!!

講師 宇都宮短期大学音楽科

助教 坪山 恵子氏

宇都宮共和国こども生活学科

准教授 新井 祐子氏

表現や歌など、保育のなかで行われている音楽活動について、実技を交えながら子ども視点に立ち、学びを深めていった。

①「あそびと音楽」では、わらべ歌の特徴や伝承とともに、歌や遊びから育まれるものや効果(情緒面・スキンシップやコミュニケーション・共感・身体的動作による発達・言葉や数の獲得など)に触れた。

②「言葉・リズムと音楽」では、「リズム」が表現の根源と言われ、鼓動をはじめ、楽曲だけでなく言葉や会話など、生活の中にも隠れていることや、ポディーパーカッション等の身体を使ったリズム遊びを体験し、道具を要さず、いつでもどこでもできる魅力や要点をお教えいただいた。

③「お話と音楽」では、絵本と音楽を融

合させ、想像力を助長させる音楽の力や効果を実感した。

④「みんなで音楽してみよう!」では、一人での打楽器の即興演奏から、最終的には全員で演奏し、一体感と共感を味わうことができた。

いずれの項目に於いても、音楽やリズムとともに、身体や心が振動することが重要であると感じた。心身に響く感覚や心地よさが、もっと聴きたい・触れたい・やりたいといった思いを自然に引き出し、自発的な行動や表現へと導いてくれるのではないかと思う。生活や遊びなど、身近なところに溢れた音楽の種を活かしながら、子どもの心が動く(響く)ことを意識して保育に取り入れていきたい。



第二回 保育テクニカル講座

期日 令和四年十一月十一日(金)

会場 ベルヴィ宇都宮ヴァーグデリス

参加 八十三名

テーマ 子どもと表現、豊かな内面の形成に着目して

講師 東京家政大学・東京家政大学院

教授 花輪 充氏

これまで、数々の舞台劇やミュージカルの劇作・演出を手がけてきた花輪氏は、大学卒業後の十五年間を幼稚園教諭として過ごした経歴があ

り、

る。

本講座では、その経験談とエピソードを交えながら、次の内容が解説された。



・表現とは？

・充電と放電

・子どもと表現活動

・人間の表現力

・表現力を育てるために！

・表現の発達

・表現の発達を踏まえた教育とは

・遊びと表現

・保育者に求められるスキルと多様性

子どもの「表現」で着目しなければならぬのは、表現活動の内容ではなく、表現行為（自己表現）であり、五感を使った直接体験、心を揺さぶる感動体験をたくさん経験することで豊かな感性がじんわりと養われていくという。

園によっては、発表会やお遊戯会シーズンを迎える頃であったが、その指導方法として、最初からビニールテープで立ち位置を示してセリフを覚えさせるような指導、あるいは、自分の指導通りにできたことを喜び、嬉し涙を流す先生はいないだろうかという問いに対して、ドキッとした参加者もいたであろう。

子どもの表現に向き合う時には、先生のオブジェにしないこと。子どもたちが喜び、ストーリーに入り込んでいる姿を喜び、先生であることが大切であると気付かされる講話が続いた。

保育現場では、自分をさらけ出すこととためらいのある子がいっても当然であり、指導方法に戸惑う先生たちも少なくはない。ゆえに、表現力を育てる時には、

人的環境を整えることが必要となる。あたたかく、批判的でなく、失敗してもバカにされたり叱られたり、笑われたりする恐れがない場であること。何よりも指導者の許容的・奨励的な態度が良い場をつくり上げる鍵となる。



参加者の中からは、劇遊びの指導方法を模索している声が聞こえてきたが、子どもの伸びやかな表現を生み出すときには、保育者の言葉かけや問いかけが思いもよらぬ着想や意欲への引き金となることも数知れないという。そのために、まずは保育者自身が表現することを最大限に楽しみ、遊び心をもって子どもとの心の距離を狭めていきたい。

参加者の中からは、劇遊びの指導方法を模索している声が聞こえてきたが、子どもの伸びやかな表現を生み出すときには、保育者の言葉かけや問いかけが思いもよらぬ着想や意欲への引き金となることも数知れないという。そのために、まずは保育者自身が表現することを最大限に楽しみ、遊び心をもって子どもとの心の距離を狭めていきたい。

第二回 O・一・二歳児研修

期日 令和四年十一月二十一日(月)

会場 コンセーレ(大ホール)

参加 八十二名

（うちリモート参加 七十五名）

テーマ 保育業務軽減 ICTの活用について

講師

大阪総合保育大学学長
大阪総合保育大学大学院教授

大方 美香 先生

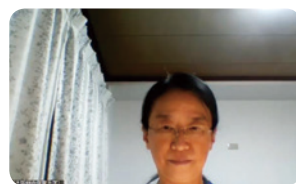
メモ

乳幼児教育は、開かれ信頼される園運営を目指すこと、カリキュラムの充実を図ること、保育者の資質向上を図ること、これら三つの相互関連や作用を踏まえ、より質の高い実践を目指していくことが大切である。

しかし質の高い保育を目指す一方で、

保育業務が増加しており、業務の軽減が課題になっている。

業務改善の手順として、まず始めに自園の業務の実態を把握し、課題改善にむけて効果的、現実的な取り組みを検討する。次にアクションプランを策定し園全体で具体的な方策を共有し実践していく。



そして、実践後はアクションプランの進行状況や具体策の課題を精査し改善すべき点を再検討していく。

業務軽減の取り組みでは、写真やICTを用いたり重複する書類を見直すことで、記録や管理の軽減を図ったり、作業を「見える化」したりすることにより、保育補助者などに分業することなどが考えられる。

また、働き方の見直しでは、業務内容をタイムマネジメントし、ノンコンタクトタイムを確保することも大切だ。保育者が子どもと笑顔で過ごし、より良い保育を行うためには、保育業務を精査し園全体で業務軽減に取り組むことが大切だと感じた。

第三回 三団体青年部合同研修会

期日 令和四年十月二十四日(月)

会場 Cafe&Uni Bio sketch 会議室

参加 十一名

テーマ 未来を生きる子どもたちへ

～新時代に相応しい保育者を目指して～

講師

一般社団法人 Learning Journey
代表 堀 昌浩 氏

國學院大学人間開発学部
子ども支援学科

准教授 吉永 安里 氏

栃木県日本保育協会青年部、栃木県私立保育連盟青年会議部、栃木県幼稚園連合会青年部の三団体合同研修会を行った。研修会を行うにあたり、コロナ前から親交を深め、幼稚園、保育園の垣根を越え、同じ子どもたちの未来を考える仕事として「一緒に活動できることはないか」という想いから、この研修会を開くこととなった。



テクノロジーの進歩による Society of 社会、予測困難な VUCA 社会で生きる子どもたちが「幸せに生きる」ために私たちは、情熱を持って、あそびを中心とした保育を楽しみ、その過程での子どもの姿・想いに共感することの大切さと、幼保小連携の重要性を確認すると同時に、もっと密な幼保小の関係づくりが必要だと感じた。その後の情報交換会でも、和やかな雰囲気で見聞交換を行った。

最後に、私たち保育者の今後あるべき姿、資質について再確認すると同時に、市町村単位で取り組まなければならない課題を見直す機会、そして幼保の親交を深める有意義な時間となった。



令和5年度 予算要望書

団体名：一般社団法人栃木県幼稚園連合会
代表者名：理事長 船田 弘和

要望事項等	継・新 の別	要 望 事 項	
		現 行	要 望
【要望1】幼稚園運営費補助金の増額 運営費補助金の増額は、私学助成幼稚園の経営の安定を図り、教育環境をさらに充実するためには欠かせません。令和4年度、県単補助金を園児一人当たり6,000円から8,000円へと増額していただきました。大変ありがたいことでありますが、幼児人口が年々少なくなっている栃木県において、私学助成幼稚園は園児減による経営環境の悪化に苦しんでおり、さらなる増額を要望せざるを得ません。ぜひとも県単補助金の増額をお願いいたします。	継続 増額要望	園児1人当/令和4年度 202,800円 国庫補助 24,700円 地方交付税 170,100円 県単補助 8,000円	園児1人当/令和5年度 204,800円 国庫補助 24,700円 ^{14年度} 地方交付税 170,100円 ^{14年度} 県単補助 10,000円
【要望2】幼稚園運営費補助金(処遇改善加算)の上限額 24万円への増額 新制度幼稚園・保育所・認定こども園では、「処遇改善Ⅱ」により、園の負担無しに最高月額4万円、年額48万円の処遇改善が実現しています。一方、私学助成幼稚園で同額の処遇改善をはかるとしても、現行制度では年額3万円の補助しかなく、残りの45万円は園が負担する仕組みとなっています。結果、私学幼稚園教諭の処遇改善はなかなか進まないのが現状です。私学助成幼稚園への調査の結果、現行制度の上限額を引き上げられれば処遇改善を行いたいとの意向を示す園が多数ありました。そこで、私学助成幼稚園における幼稚園教諭の確保・定着を促進するために、新制度園の「処遇改善Ⅱ」の年額48万円の半額、24万円を加算上限額としてくださるよう要望します。	継続 増額要望	幼稚園教諭の処遇改善を行った園に対し、改善額の半額を上限3万円(年額)の範囲内で加算する。 総額793万円 (うち、県負担半分)	処遇改善額の半額を上限24万円(年額)に引き上げる。 総額約6,350万円 (うち、県負担半分)
【要望3】「栃木県幼稚園連合会補助金」の増額 教諭・保育教諭の資質向上は、教育・保育の質の向上に直接関わります。本連合会では、幼稚園・認定こども園の教諭・保育教諭の研修実施、設置者・園長の研修実施を通じて、積極的に教育・保育の質の向上を図っています。コロナ禍の中にあっても、オンライン研修、園内研修の充実等、できる限りの工夫をしながら資質向上に取り組んでいるところです。一昨年、本連合会が「処遇改善Ⅱに係るキャリアアップ研修」の実施団体として認定(研修実施主体認定)を受けたことから、今後の研修については、分野・回数・時間を増やしていく予定であり、それには経費増が見込まれます。つきましては、本連合会の研修会実施に対する補助「栃木県幼稚園連合会補助金」を継続していただくと共に、その増額を要望します。	継続 増額要望	6,000千円	7,000千円
【要望4】3～5歳児(1号園児・2号園児)の副食費の無償化の早期実現 「栃木県に住めば子育ての経済的負担が減る」というのは、子育て世帯にとっては大きな魅力のあるインセンティブになります。知事の公約(「福田とみかずの幼児教育から版」)にも、「市町とともに無償化することを目指します」とあります。県内には既に無償化を実現している市町もあります。「子育てに手厚い補助のある栃木県」をアピールするために、早期に実現されますよう要望します。	新規		3～5歳児(1号園児・2号園児)の副食費の無償化
【要望5】子育て支援事業等に対する補助金の増額 ①仕事と子育ての両立のために、預かり保育は大変重要です。幼稚園が行う預かり保育に対する補助金の増額を要望します。 ②未就園児親子教室等の子育て支援活動を通じ、幼稚園が地域の子育ての拠点として、子育てにおける精神的負担の軽減を図る充実した機能を提供できるよう、補助金の増額を要望します。 ③安心・安全な施設整備の観点から、園舎の耐震診断、耐震補強等にかかる費用の助成を要望します。	継続	わんぱく保育推進事業	わんぱく保育推進事業
	継続	子育てランド事業	子育てランド事業
	継続	幼稚園耐震化事業費	幼稚園耐震化事業費
【要望6】子だくさん応援 多子世帯保育料免除事業費の創設 栃木県では、平成28年度に第3子保育料免除事業費が創設され、18歳未満の兄弟から数えて第3子以降の子どもの保育料が無償化となり、転入者の増加につながりました。要望4は、この第3子保育料免除事業費を「子だくさん応援 多子世帯保育料免除事業費」に発展させるという提案です。具体的には、「18歳未満の子どもが3人以上いれば、就学前の施設に通う子どもが何人目の子どもであるにかかわらず、3～5歳の副食費を無料にし、0～2歳の保育料を無料にする」というものです。子だくさんの世帯を応援するメッセージが明確に伝わる事業であり、3人目を産もうという気持ちにさせる画期的な事業であります。どうか、国・他県に先じた施策として発表し「子育てするなら栃木県」をアピールして「とちぎで子育てしたい」を実現していただくことを要望します。 昨年に引き続きになりますが、ある園でのエピソードを紹介します。「ある朝、2人の子を持つお母さんが「引っ越しするので退園したい」と言ってきました。理由を尋ねると、同居する姑に3人目の子を妊娠したことを報告したら、「子育てにはお金がかかるんだから2人で十分、堕ろしなさい。」と言われたとのこと。「経済的な心配はわかるけど、3人目をあきらめたくないの、しばらく実家に身を寄せて3人の子を育てられる方法を考えたいんです。」とお母さん。目には涙がふれていました。「今の時代、子だくさんは苦労するだけなんじゃないか…」の言葉に、園長先生は返答に詰まってしまいました。栃木県では、「子だくさんが推奨されている」、言い方が悪いかも知れませんが「子だくさん家庭が得をする」「子ども2人より3人いた方が経済的に得をする」、そんな施策を実現し、強くアピールしていただくことを願っています。	新規 発展的 継続	第3子以降保育料免除	3人以上子どもがいれば第1子も第2子も、保育料と副食費が免除になる →転入者増加 →もう一人！促進

●令和5年度 予算要望書について

令和5年度に向け、11月9日に自民党政策懇談会に、12月8日に山形県議会議員と12月12日には福田富一知事に、それぞれ予算対策要望書を提出し、陳情をしてまいりました。

今回特にお願ひ申し上げたのは、栃私幼振興財団における退職金補助金の交付率の引き上げ「29/1000」から「30/1000」についてです。

この事について中高連(栃木県私立中学高等学校連合会)と力を合わせて取り組んだ訳ですが、石嶋勇顧問と船田理事長がそれぞれ先頭に立って奔走なさってくださいました。

その他の要望事項についても今後、粘り強く展開してまいります。また来年は統一地方選挙が控えています。各園におかれましては引き続き振興活動への積極的なご協力をよろしくお願い申し上げます。(振興委員長 富川 将)





合同研修「幼小」

十月二十日、十一月八日、十一月十四日に、オンラインにて合同研修「幼小」を実施しました。

全体会では、センター職員により「諦めずに最後までやり遂げる子どもを育てる」について講話を行いました。

その後の分科会では「幼小接続期にふさわしい指導の在り方を考えよう」やり遂げる力を視点に「のテーマの下、幼稚園・こども園・保育所・小学校の教職員が一緒に協議しました。やり遂げる力を育てるために大切にしたい子ども姿を共有し、これを基に接続期の教育の在り方を考え、カリキュラムの見直しにつなげるという内容でした。



やり遂げる力を視点に、子どもの育ちや学びをつなげるための指導の在り方や大切にしたいことについて熱心に協議し、日頃の指導を振り返りました。

受講者からは、「自分なりの思いや考えをもって取り組む姿を大切に、子どもたちの主体性を大切に保育を行っていききたい」「幼児期の指

導を踏まえ、小学校でも、児童の心が動き、主体的な活動となるような場の設定や時間の確保などを考えていきたい」などの感想がありました。これからも、幼小の教職員の意見交換や合同の研修の機会などを通じて、接続期の教育の充実がますます図られていくことを願っています。

トピセミナー「教育」

九月二十日に、オンラインで実施しました。「学びの基盤としての幼児教育」小学校への架け橋期を見通す」について、白梅学園大学名誉教授 無藤 隆先生より、幼小の連携・接続に関する国の最新の動向や、学びの連続性を確保する上で大切にしたいこと等について御講話をいただきました。

受講された園長先生などからは、「小学校との接続については、五歳児担任だけでなく園全体のこととして、カリキュラムの見直しをしていきたい」「一人一人の思いや声を大切に保育に取り組むことの重要性が再認識できた」「スタートカリキュラムの重点化を図る視点は、学校経営の重点化の具体策として取り組んでいきたい」などの感想がありました。

本研修が、幼児期の学びの保証と小学校への円滑な接続に寄与することを願っています。



幼小接続推進者研修第四日

昨年度まで実施してきた「幼小連携推進者養成研修」の後継となる本研修第四日を、十月十四日に、宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園を会場に実施しました。

本研修は、市町から選定された幼小の教職員がペアとなり、「ジョイントカリキュラム」を年間を通じて作成しながら、幼小の円滑な接続の重要性やカリキュラムの充実について指導的な役割を担える人材の育成を図るものです。

第四日は、午前中に年長児の保育参観を行い、午後は、年長児後半の育ちや保育者の関わりについて協議しながらジョイントカリキュラムの作成を進め、「幼小接続の鍵」を他者に伝えるための骨子について考察しました。



受講者からは、「実際の現場で感じてきたからこそこの気付きも多く、保育を振り返るよい機会になった(幼)」「保育参観を行い、主体的な活動を支える保育者の指導の在り方を考えることができた(小)」などの感想がありました。第五日には、それぞれの作成した資料をもとに、「幼小接続の鍵」について発表し合うことを予定しています。

テーマ「架け橋期の教育の充実に向けて～赤見地区の取組から～」

令和四年度文部科学省中央協議会

今年度は、十二月八日、九日の二日間、オンラインで開催されました。第一日の全体会は、シンポジウム「幼児期の子どもの教育・保育の基本、小学校教育との円滑な接続」として、内閣府・厚生労働省と合同で開催されました。第二日は、「幼小の架け橋プログラム」に関する講演とグループ別協議が実施されました。教育課程研究会受講者の代表の先生方に参加していただきました。

令和四年度栃木県教育研究発表大会

令和五年一月二十八日(土)オンラインによる開催

県総合教育センターWebサイトよりお申し込みください!

《幼小連携部会》実践発表

「認定こども園と小学校の接続プロジェクト」概要

認定こども園あかみ幼稚園 理事長 中山 昌樹

座談会

「認定こども園と小学校の接続プロジェクト」赤見地区七年間のあゆみ」

★コーディネーター

栃木県幼児教育センター

センター長 高木 恵美

★パネリスト

認定こども園あかみ幼稚園

理事長 中山 昌樹

園長 中田 幸子

佐野市立赤見小学校

教諭 仲山 弘美

教諭 荒巻 珠永

佐野市教育委員会事務局学校教育課

指導主事 小林 美穂

指導助言

栃木県幼児教育センター

顧問 神長 美津子



こども政策課だより

一月始業日現在の園児数調べの実施について

運営費補助金及び教材費等補助金の変更交付に当たり、一月初旬に、一月の始業日現在における在園児数等をご報告いただきます。詳細については、別途文書でお知らせしますので、期限内の提出をお願いいたします。

子育てランド事業に係る実施記録について

子育てランド事業を実施している園においては、各実施事業の参加人数や活動内容等の記録を実施報告書提出時に添付していただきますので、必ず記録を取っていただくようお願いいたします。

わんぱく保育推進事業に係る実施記録について

わんぱく保育事業を実施している園においては、預かり保育の実施記録を県で定める様式に記入の上ご提出いただいておりますが、今年度からは、各園で日頃記録している資料（根拠資料）についてもご提出いただくことになりました。実施報告書提出時に添付していただきますので、ご用意をお願いいたします。

物価高騰対策支援（光熱費支援）について

物価高騰の影響を受ける施設の負担軽減のため、県では緊急的に光熱費支援事業を行うことにいたしました。

既にご案内したとおり、私学助成幼稚園は県で交付申請を受け付けています。新制度幼稚園及び認定こども園等の交付申請等については、市町にお問い合わせてください。

園舎の耐震化の促進について

東日本大震災以降、園舎の耐震診断の実施・耐震化がより一層求められています。

本県の私立幼稚園等の耐震化率は、令和三年四月一日現在で九十・八％ですが、全国平均九十三・五％と比べ、依然低い数値となっています。

令和五年度以降も引き続き、国庫補助制度の活用による耐震化を促進したいと考えておりますので、耐震化（建替・補強等）を予定する場合は、市町の担当課も含めて早めにご相談くださいますようお願いいたします。

今後とも、園舎の耐震化に取り組んでいただき、安全・安心な教育環境の整備をお願いいたします。

令和五年

一～三月までの事業計画

1月6日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
1月18日	○一・二歳児研修
1月20日	設置者・園長研修会
1月27日	資質向上研修（評価スケール）
2月14日	※幼稚園等教職五年目研修
2月16日	設置者・園長研修会
2月16日	※幼小接続推進者研修
2月16日	※幼児教育センター事業

令和五年度 主な事業計画

5月24日	栃幼連定時総会
7月5日	栃幼PTA連総会
7月9日	就職説明会
8月9日	第36回全日私幼関東地区教研大会（群馬）
8月22日	第70回栃木県幼稚園教育研究大会
10月26日	幼稚園教育振興の集い（真岡市・市民いちごホール）

事務局だより

新職員紹介

十二月一日付にて当事務局職員として、鈴木榛華（26）さんが採用されました。



この度採用いただきましたこと嬉しく思います。趣味は音楽鑑賞で、お休みの日はライブを観に行ったりします。何かと至らぬ点もあるかと思いますが、笑顔で頑張りたいと思いますので、よろしくお願いたします。

編集後記

園で大事にしている桜の木が特定外来生物「クビアカツヤカミキリ（以下クビアカ）」の被害に遭っています。もしかすると手遅れで、朽ち果ててしまいかもしません。クビアカは、外来種で、成虫の体長が二～四センチ、体全体が黒く光沢があり、頭部の下、首の辺りが赤いのが特徴です。その幼虫がサクラやウメ、モモなどの生木に食入し、加害することで樹木を衰弱させてしまいます。栃木県では、数年前に足利を皮きりに、栃木・佐野・小山・壬生・野木、そして今年の七月には、宇都宮でも被害が確認され、じわじわ北上しているようです。

自宅や近所などで成虫を発見した場合は、成虫を駆除し、各市町村まで連絡してください。栃木県からも駆除のお願いが出ています。因みに私は五匹駆除しました。クビアカの詳細などは、栃木県のHPでも確認できます。

毎春、卒園式や入園式を素敵に彩り、私たちを楽しませてくれる桜の木がピンチです。皆で桜の木を守り、末長く後世に伝えていきましょう。

（足利しらゆり幼稚園 一ノ瀬孝之）